

2021年7月6日

各位

株式会社スプリックス

---

港区教育委員会と連携した CBT (Computer Based Testing)  
の導入推進について

---

株式会社スプリックス（本部：東京都豊島区／代表取締役社長：常石博之）は、GIGAスクール構想による1人1台端末の積極活用を進める港区教育委員会との連携により、CBT (Computer Based Testing) の導入を推進いたします。従来の紙に替わる新たな手段となりうるタブレット/パソコンによるテストシステムを先進的に展開することで、学校教育における新しい学習のかたちをともに創造いたします。

## 1. CBT 導入の背景

- ・スプリックスと港区教育委員会は2019年7月、民間教育における最先端の技術や革新的な教育技法を公教育へ活用すべく、包括的な連携を発表いたしました。以降、個別最適化学習プログラムによる授業展開や、タブレットを使用した基礎学習の実施等、様々な試行を繰り返して参りました。
- ・GIGAスクール構想による1人1台端末をいち早く実現させた港区教育委員会は、各種学力調査が紙からタブレット等に置換される将来像を念頭に、CBT の実現可能性の検討を他の自治体に先行するかたちで進めております。一方、教育におけるICT活用を進めるスプリックスでは、複数領域でCBTプロダクトを開発しております。
- ・上記を背景に、港区教育委員会の学校現場に対してスプリックスが有するプロダクトを導入し、教員や児童・生徒のフィードバックを吸収することで、CBTをベースとした公教育における新しいテストシステムを創りあげていくことに合意いたしました。

## 2. 具体的な推進内容

この度の連携においては、3つのCBTプロダクトをセットとした「CBTパッケージ」の導入を推進いたします。それぞれのプロダクトの概要は次の通りです。

### (1) TOFAS (Test of Fundamental Academic Skills)

- ・計算、英単語、漢字・語いなど、基礎に特化し学力を評価するテストシステム。Webベースのため教員による採点は不要で、結果はスピーディーにフィードバック。基礎学力を確実に定着させるべく、一人ひとりにテストの分析結果を可視化する。TOFASは日本だけでなく世界複数国で実施しており、グローバルレベルでの基礎学力の比較も可能。
- ・2021年3月、港区教育委員会における12の小中学校で実施済み。

## (2) プログラミング能力検定

- ・プログラミングの基礎となる知識を測るための試験。順次処理、条件分岐、繰り返し、変数など、プログラミングの概念の理解度を体系的に分析・評価することで受検者のプログラミング能力を詳細に測り、それまでの学習成果を証明するとともに、その後の効果的な学習につなげる。また、2022年度より高校にて必修化される「情報I」のプログラミングに関する領域に対応し、2024年度の大学入試共通テストから必修となる情報科目としてのプログラミングへの対策試験となることを目指す。
- ・2021年6月、港区立御田小学校の5年生・6年生を対象に実施済み。

\*実施の様子



## (3) 単元別 CBT

- ・小学校から中学校の主要教科に対応し、それぞれの単元ごとにテストを用意。学習塾向け教材フォレスタの制作で培った教材開発ノウハウと、TOFAS で構築したテストシステムのプラットフォームを融合させることで、5教科に準じた新たなCBTシステムを構築する。
- ・2021年度2学期に、港区立赤坂中学校にて試行予定。

### 本件に関する問い合わせ先

株式会社スプリックス

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 1-11-1 メトロポリタンプラザビル 12F

TEL : 03-5927-1681 eMail : info@sprix.jp